

加古川市、社協、兵庫大 災害時に備え3者協定



協定を結んだ(左から)加古川市の岡田康裕市長と兵庫大の河野真学長、同市社会福祉協議会の田淵博之理事長＝兵庫大

大学施設にボランティアセンター

加古川市、同市社会福祉協議会、兵庫大・兵庫大短期大学部は、同市平岡町新在家の同大学で、災害時のボランティア支援についての協定を結んだ。有事の際は、大学施設に災害ボランティアセンターを設置できる。また同市と同大学は、大学施設を災害弱者のための福祉避難所に指定する協定も締結した。

ボランティアの受け入れ事務などを担う同センターは、同市加古川町寺家町の市総合福祉会館への設置を想定しているが、被災して同会館が使えない場合は同

大学に設けるといふ。

福祉避難所は、避難生活に配慮が必要な障害者や高齢者、妊婦らが利用する。市によると福祉避難所は市内で33施設目。

協定締結式は19日にあ

り、岡田康裕市長は「災害時に大学の施設を利用させてもらえるのは心強い。地域の住民にも安心してもらえる」。河野真学長は「一人でも多くの市民の命を守れるように、役割を果たしたい」と話した。

(斉藤正志)